



森のなかま

2009年 3月

No. 11 (継続156)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

“やどりきの暮らし今昔”

— 寄の方々との交流会 — 森林文化部会

<第4話 最終回>

○ 大館秀孝さん (第3テーブル)

大館秀孝さんはログキャビン「しおや」を経営しておられ、鉄砲撃ちをされています。鉄砲撃ちも昔とは様変わりして42名ほどいたが、今では12名だそうです。しかも30歳代は2名でほとんどが50歳以上。なり手がいない。昔は生業の一つとして営む者もいたが、今じゃ全員が遊び(趣味)でやっているそうです。

・鉄砲撃ちの話

今日も、鹿目当てに鉄砲を撃ってきた。しかし獲物は取れなかった。鹿は10年前と比べると増えている。畑には旨いものが育ってるし、気候も暖かくなったからだろう。昔はミロク山荘近くの滝も全面結氷が良くあったそうです。又拡大造林により広葉樹から針葉樹に切り替えが進んだため、木を植えた直後15年くらいは林内も明るいので下草も沢山あった。しかし最近は林内が暗いため下草も生えず、鹿が里山に下りてきて、奥山ではあまり見かけないそうです。あまりにも増えすぎて鹿の群れで山が動いているように見えることがあった。鹿自身2頭同時に生むことも増えている原因のようです。

ここ数年鹿の数量管理と言うことで、山に入る機会が増えているが、昔、春、秋、各1週間だけ入っていた程度だったが、今は3ヶ月位入ることが多いそうです。鹿の数量管理と言っても学者先生が机上で計算したものだから実際のところは分からない。尚、クマは数量管理には入っていない。

・暮らし

三極で紙隙をやったことは無かった。しかし、蚕やカラムシで布を織ったことはあったそうです。

○ 渋谷スミ子さん (第3テーブル)



渋谷スミさんは80歳で、現在宮地地区で生活をしてらっしゃいます。スミ子さんのお母さんの生まれたのは明治36年。道志で生まれ、嫁に来るとき中川川を、そして玄倉を下り山北を通過して「寄」に来たそうです。「裏」を歩いてきたんだよと言っていたそうです。馬だか車だかの両側に、嫁入り道具の荷物をつけ歩いてきたそうです。

昔、スミ子さんが女学校に通っていた時も、寄は道が険しく、砂利道で凸凹していたので荷物と一緒に(馬、馬引き荷車、牛引き荷車?)に乗って通っていたそうです。

各テーブルブルに並んだ「カレントウ」はスミ子さんが作って、本日持ってきてくれたもので、「いや、この辺は何も無いところなんです。それで、お客さんが来た時、御土産にと作って持たせたもんですよ」と言っていました。又料理の中のコンニャクもスミ子

さん作だそうで、コンニャクの花の写真もを見せていただきました。花は茎がスキーのようにすっと伸び上端に花が咲き、人の背より高かったです。そのように花が咲くと芋は無くなり、花が咲き、実のなる前に、芋を取りコンニャクニして食べるのだそうです。

○ 飯田玉雄さん（第3テーブル）

飯田玉雄さんは、製茶工場を経営しながら、寄神社の氏子総代をなさっています。昔は、「森村林業」に山を売ったし、売らなかった自分の山の手入れもしていたそうです。当時時々山に入り、担げる丸太を町に持っていけば、金になったそうです。炭焼きなんかもやり、農業と林業で食えた時代でしたとのこと。例えば落花生も両手いっぱい持っていけば、熱海あたりで一泊とまれたそうです。終戦直後は町の者より経済的に裕福だった様な気がします。

・寄神社のこと

寄神社の御神体は、シダンゴ山から白い馬に乗って、稲郷の入り口に下りてきた、という言い伝えがあるそうです。それは3月5日だそうで、今日ではその日に近い3月の第1土曜を大祭としているそうです。又御神体を見た神主は1年以内に亡くなったそうです。それが理由ではないが、現在宮司はいませんとのこと。御神体を見る方法があるそうで、3日3晩御神体の前に座り、その後扉を開けて見ると、見ることができるそうです。ご神木は、現在イチョウと杉があるが、以前はカヤとケヤキもあった。しかしこれらを売って学校拡張の費用に充てた。現在のご神体の杉の樹齡



は800年程といわれているそうです。

寄神社は、周辺の神社に比べると昔から格が高く、式年遷宮の時は神社庁が決める上納金が高く、大変だとのこと。

・暮らし

最近では町に働きに行き、休みの日には農作業をする兼業農家がほとんどだそうです。寄小唄などは昔は小学校の入学式のとき教えたそうですが、今ではやっていないそうです。寄も新しい人たちが入ってきて、祭りとか“しきたりのもの”ができなくなってきました。松田町の大名行列なども殿様は居なく、塩を撒きながら天狗が先頭で歩くそうで、獅子舞なども無くなりつつあるそうです。



桜咲く 初春のガキャン「しおや」さん



[しおやさん特製]の美味しい鹿シチューです。

H20年度 やどりき水源林のつどいより

私の認識

ツル目クイナ科の野鳥で、本州北部以北で夏鳥、それより南では留鳥か冬鳥と言われているバン（漢和名：鶉 英名：Moorhen）体長L=32cm ♂♀同色についてご案内致しましょう。

成鳥の体色は頭部から喉下、体下面が灰色がかった黒色、背面は黒褐色、脇腹には白色縦斑そして最大のポイントは、赤色の額板と先端が黄色で基部は赤色の嘴、上嘴の基部と額板が一体化している点であります。

脚は緑黄色で指が長く、軟弱な泥地や水草の上を歩くのに都合よく進化しています。

尾羽は短く、背後から見ると尾の下面は白色の逆V字模様があり、特に尾を上げるとそれが鮮明に見える点も同定のポイント！！

雛は黒色のうぶ毛に被われていますが、嘴は成鳥と同じ様に先端が黄色で基部が赤色です。然し額板はハッキリしてません。



バン

採食は、動物質、植物質何でも食べると言われています。

私がビギナーの頃に、平塚の花水川で観た個体は警戒心が強くすぐに草の中に隠れてましたが、稲敷市の小貝川や沼津の浮島沼に在る西部浄水場の調整池では、人が見えても余り警戒している様子は無い様でした。

バンは繁殖期に葦の繁みの中で、“クルルッ”と大きな声を出すそうですが、私は未だ聞いた事はありません。

次は、本州北部以北で夏鳥、それより南で留鳥か冬鳥のオオバン（漢和名：大鶉 英名 Common Coot）体長L=39cm、♂♀同色、に関してご紹介いたします。

成鳥の体色は全体が黒色、見る角度で背面が青灰色に見える事があります。

嘴は白色で、額に盛り上がるように額板があり、これがオオバン同定の最大のポイントと認識しております。

野鳥その64

高橋 恒通



オオバン

世界地図での棲息分布はユーラシア大陸、インドやイベリア半島、オーストラリア大陸ですが、南北米大陸には棲んでません。因みに先述のバンはオーストラリア大陸に棲んでませんし、逆にバンは中南米には生棲しているそうです。

私達の住んでいる神奈川県下では、バンと比べるとオオバンに逢える可能性は遥かに多いと認識しております。

特に冬季には、数羽から数十羽が群れとなって生活している場面によく遭遇できます。

その代表的な場所は酒匂川の飯泉堰です。ここでは冬季には、百羽を超えるオオバンを私は、この2～3年毎年観てます。そして、その殆んどが水面を泳いでますので、様々な角度から観察できます。「これが本当のオオバン振舞いだよ」などと駄洒落を口走り乍ら毎年見えます。次のおすすめスポットは、相模原沈澱池—通称は相模原貯水池—です。

やはり冬季に十数羽が常時見られます。鉄製のフェンス越しに、すぐに目の前を、頭部を小さく前後に振り乍ら泳ぐ姿が見られます。

3番目のスポットは狩川です。小田急線の蛍田駅を降りてすぐの処です。ここでは小さな中州に上がって草を食べたり、小さく飛んだりする行動も観察できます。

バンと比べると人間に対する警戒心が少ないと私は認識しています。ヨーロッパでは公園の池で、人からバンのかけらを貰っている場面もよく見かけるそうです。

<参考資料>

・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄、山と溪谷社

・日本の野鳥 フィールドガイド1、竹下信雄著、小学館
写真、沖縄県立博物館・野鳥手帳より（バン）
ウィキペディアフリー百科事典より

木の精気

広がる精油の利用

谷田貝 光克

森林浴ブームのあとを受けて樹木精油の需要が増し、国内でも精油採取が積極的に行われるようになってきた。精油は、森の香りの製品として芳香剤、入浴剤、石鹸、繊維製品、合板製品などに使われている。採取される精油のほとんどは製材時に排出されるおが屑やチップを原料とした材油である。木を伐採する時に排出する枝葉も大いに利用価値があり、海外ではユーカリ油やシダーリーフ油など採取されている例も多い。しかし、わが国では林内での枝葉の収集、搬出などの手間が障害となり、現在はほとんど利用されていない。貴重な天然資源を何とか利用する道がほしいところである。

精油採取技術は少しずつ改良され、効率のよい採取が行われるようになってきている。そして、精油の新しい用途の開発も進められ、新しい分野に浸透しつつあるのが現状だ。 マツヤニやオレンジの皮の精油成分を超 LSI (大規模集積回路) の封止材として利用することや、ヒバの抗菌成分ヒノキチオールで胃潰瘍の引き金となる細菌を除菌することなどはその一つである。また、ベッドに寝たままで森の景色が現れ、鳥のさえずり、風のそよぎとともに心身をリフレッシュさせる木の香りが流れる「仮想森林浴」システムや、運転中に眠くなったら香りで目を覚まさせる居眠り運転防止システムまで登場した。木の成分の新しい働きが発見は、精油に限ったことではない。樹皮に多く含まれるタンニンや、カテキンには、強いホルムアルデヒド吸着能、有害重金属を吸着し、環境浄化する働きがあることが知られ、カテキンの亜鉛あるいはニッケルとの複合体ではシロアリに対する摂食阻害活性、殺蟻性が増大することもわかってきた。また、シラカバ樹皮成分がアレルギー反応を抑制するのに効果があることなど、精油に限らず、木の精気たる生理活性を持つ木の成分の新しい働きが次々と見だされている。内装材等に使用される接着剤や塗料から発生するホルムアルデヒド、トルエンなどの揮発性

有機化合物 (VOC) が、室内にこもり健康を阻害し、大きな社会問題となっている。いわゆる「シックハウス症候群」や「新築病」である。これらの物質は、頭痛、目やのどの痛みのほか、不眠症などをも引き起こす。厚生省では室内でのホルムアルデヒドの許容濃度のガイドラインを示し、対策に乗り出した。木のおいである精油成分テルペンも、揮発性であるという点で VOC であることには違いない。が、しかし、テルペン類にはシックハウス症候群の元凶となっているホルムアルデヒドを捕捉し、その濃度を減少させる働きがある。さらに、低濃度では快適な気分を作り出す。

千年程前の医学全書「医心方」の現代語訳で知られる榎佐知子さんは「自然に医力あり」という著書の中で、スギの葉を煎じて飲むとスギ花粉症に効くことを紹介している。昔の書に書いてあったのを応用したのだそうだ。確かに効果があるという。とすれば、何か効く理由があるはずだ。杉の葉の成分が関係している可能性は大きい。毎年、スギの花粉が飛ぶ時期になると少なからぬ人がマスクをし防御に躍起になっている。そのスギ花粉症に、スギの葉が効くというのだから皮肉でもあるが、自然の世界はおもしろい。自然をもって自然を制すということだろうか。

汚染された地球の環境を浄化し、生き物が元気を回復するには、原点に戻り自然の力を利用するのが一番良いということなのだろうか。(森林総合研究所) 本記事はグリーンパワー (森林文化協会) に記載済みです。

やどりき
水源林 A コース
杉の雄花・
2 / 2 0 撮影
(M)



山菜を楽しむ

その12 お洒落！ ハマダイコン (A) 有田保彰

このシリーズも最終回になりました。

山菜採りを存分に楽しんでいただくために、シリーズ、その1(145号)でご披露した、私たちの山菜の先生があげた4点を、もう一度振り返ってみたいと思います。

なんといっても、まずは安全です。

危険その1は毒です。キノコは怖いのでなかなか手を出せませんが、野草も驚くほど身近に有毒のものがあります。例えば、トリカブトはこの辺りのハイキングコースにも普通に生えています。ニンソウのお浸しを食べようとして、間違えてトリカブトを食べてしまった、というケースをときどき耳にします。

すこし慣れてくると、かえって危ないということでしょうか。

まさに、この原稿の粗案を書いていた日に、(20080312)セリと違ってドクゼリを食べてしまった人のことを、ラジオのニュースで聞きました。また4月25日にも、奥多摩で採ったハシリドコロを食べて重体となり入院したとのケースが報じられました。

とにかく、100%の自信があるもの以外は絶対に口にしないと肝に銘じることが大事です。くれぐれも、99%は0点だと思ってください。

危険その2はスズメバチです。クマなどよりもっと怖い存在です。お目当てのヤマノイモやサルナシを見つけた嬉しさのあまり、ついそのターゲットに視線が釘付けとなり、周囲に気を配らずヤブの中を突進するというようなことは危険です。万が一その近くにスズメバチの巣があったら大変です。

危険その3は刃物です。見つけたものを切り取ろうとナイフの刃を出したまま、急な傾斜を登ったり降りたりするのは、とても危険です。

危険その4は、強いて言えばクマやサルなのですが、たいしては、向こうが避けてくれます。クマに出くわす場面としては、ネマガリダケを採るのに夢中になって、目先の地面にばかり気持ちが集中しているときだ、と聞いたことがあります。クマのほうも夢中なのでしょう。

次は、採り方です。タラにしてもコシアブラにしても、一本の木に三つ芽があったとしたら、少なくとも一つは残しておかないと、木全体が枯れてしまうそうです。ヤマノイモは堀取ったものの上の部分数センチを埋め戻しておけば、また芽が成長するそうです。数株(芽)あれば一株(芽)を残すことを心がけたいものです。

理屈は解っていても、珍しい山菜を目の前にしてしまうと、つい最後の一株にも手を出してしまいがちです。人数が多くなれば違う考えの人がいる確率も高くなるわけですから、貴重なものであればあるほど、この人なら、と思う人以外には教えるなど、良く言われました。



画 有田保彰

自分の庭や畑のヤブガラシを取られたと怒る人はいないでしょうが、とにかく人様の迷惑にならないようにしたいものです。私たちが知らない、なにか大事なものが植えられているかもしれませんし、崩れやすい土質のあぜ道などは、歩くことだけでも迷惑なのかもしれません。

さて最終回はハマダイコン。葉の形が特徴のあるダイコンの葉なので、簡単に見つかります。花が咲けば間違えることはないでしょう。群生したものが花を咲かせると、それはそれは豪華です。花は、紫色の濃淡で、花びらの形と脈がとても魅力的です。

ロゼット状だったものが、立ち上がってきたころから若葉を利用します。葉をざっと洗って、塩水で短時間茹でただけのものを、他の味などつけずに、姿作りだなどと言いながら、手でワイルドに食べるのをお奨めします。さぞかし栄養があるだろうという、そのもの自身の濃い味に納得がいきます。普通のダイコンの葉っぱ同様いろいろな方法で食べてみてください。

花をつけた若い葉と茎の部分の数本まとめて、薄い衣で天ぷらにすると、ほれほれするくらい綺麗に仕上がります。葉や茎の緑と花の赤紫の濃淡が、衣から透けて見えかくれするのです。

ぜひ、塩でたべてみてください。

真っ白な皿に盛ると、透明水彩で薄く絵付けしたような、とてもソフトで上品な表情になります。

ま、難しい話は抜きにして(安全だけは十分ご留意していただくとして)このシリーズが、みなさんが自然を楽しんでいただくキッカケの一つになれば、私としては嬉しい限りです。

(了)

活動短信

1/14～2/17

ふれあいの森再生計画(1) <講話>

日 1月14日(水) 晴れ 13時55分～14時40分
場 厚木市立愛甲小学校
参 5年生児童92名、教員4名。
イ 柏倉④

神奈川県の実態について説明し、人が森と関わる事によって、豊かな自然環境を取り戻すことにつながることを知らせる。

また、森林の働きについて理解を深め、自分たちが次世代へしっかりと引き継いでいく使命があることに気づかせる。パソコン教室で映像中心に説明を行い、具体的に理解出来るように心がけた。

(講話の主な内容)

- ・人工衛星から見た県土
- ・森林からの贈り物水
- ・森林の観察
- ・荒れてる森林
- ・森林の手入れ
- ・手入れされた森林
- ・命の水の始まり
- ・森林の働き
- ・次の人達へ

ふれあいの森再生計画(2) <伐採>

日 1月27日(月) 9時40分～12時20分
場 厚木市立愛甲小学校
参 5年生児童90名、教員4名。
イ 柏倉④、佐藤⑤、相馬⑤、(援助 高崎④)

始めに「森林の学習」のまとめとして「水源涵養実験」を行ったが予想を超える児童たちの反応で、「手入れされた豊かな森林」と「手入れされていない荒れた森林」の違いが顕著で共感的な理解が得られたのは何よりであった。その後、ヘルメットを頭に着け伐採、枝打ち作業に取り組んだ。

25年ほどたったクヌギ・コナラなどの広葉樹をクラスごとに切り倒し、枝切りをして整理する。初めての体験活動に子どもたちは皆真剣であった。最後に、切り株の「萌芽更新」にふれ、これからのふれあいの森の成長を見守っていくよう伝える。

(記 4期 柏倉)

水源の森林エリアで間伐

日 1月25日(日) 晴れ 9時半～13時
場 山北町川西
参 一般応募者・86名
公 稲葉、鳥海、山北町2名
イ L宮向井⑨、菊池①、松田⑦、高橋⑨、石田⑨、野牛⑧、福島⑨、友谷①、阿部(順)⑧、高井⑩、米山④、植松⑧、橋本⑩、相馬⑤、渡辺(靖)⑧、宮下⑩、**研** 酒井⑩、

集合場所の新松田駅から、作業現場の山北町ふれあいビレッジで下車した時刻には、冬の寒さも和らぎ絶好の間伐日和。間伐場所の森までは徒歩5分。

作業現場は、ヒノキの森1haの急斜面、足元が不安定で落石が多く注意を促す。参加者を5班体制、1班に3人のインストラクター配置。また、当初3人一組の作業を6人一組にする。安全管理を考え、伐採するときは、必ずインストラクター1名配置。

今回は、経験者の参加が多く作業は、慎重かつ順調に進んだ。間伐が始めての人も作業が終わるころには、緊張感がほぐれ、笑顔に変わった。当初目標の9割程度の伐採が1時間45分で終了。森もずいぶん明るくなった。心配していた落石による事故も間伐時のけがもなく、無事作業が終了したときは正直ほっとした。作業を終えて下山する皆様から「ありがとうございました」と声をかけられたときは、感激した。ミニ講座の中で、今回の間伐で川西の間伐は終了するが、今後も引き続き間伐作業に参加して欲しいとお願いした。寒い中、参加された皆様と指導にあられたインストラクターの皆様へ感謝申し上げたい。(記 9期 宮向井)

第19回 手作りクラフト(竹細工)

日 1月31日(土) 10時～15時
場 県立21世紀の森
参 7名(大人)
イ L山崎⑦、落合③、愛木⑦、
 当日、朝方までの大雨により、予定されていた孟宗竹林での竹の間伐実体験は滑りやすく、危険な為中止とし、午前中は事前に用意しておいた孟宗竹を使って花器づくりをしました。
 昼食時の12時から13時30分まで、森林ふれあいセンタースタッフ、尺八、詩吟、お茶会が行われ、ひと時の癒しを味わいました。食後、木工センターに戻り14時30分まで自由創作とし、インストラクターが持参した多数のサンプル品を元にして、作成始動にあたり大変好評でした。

(記 7期 山崎)

「里山ボランティア育成講座第三回」

日 1月31日(土)
場 生田東五反田特別緑地保全地区
参 一般市民、23名
スタッフ 川崎市公園緑地協会ほか 9名
イ 井口⑧、清水⑧、野田⑧、相馬⑤、渡辺⑦、松崎⑤、

川崎市公園緑地協会が実施する「里山ボランティア育成講座」シリーズの第三回目。今回は、竹林管理作業の体験ということで、孟宗竹の間伐、処理を行う予定であったがあいにくの荒天のため、大幅に予定を変更して午前中のみで行われた。はじめに生田東高校の教室を借りて地元竹林整備の会の人から竹林管理の実態について説明、次に公園緑地協会のスタッフが竹林管理の仕方について講義、森林インストラクターの井口さんが竹に関する絵本を朗読した。

次に現場に出て公園緑地協会が雇った佐々木事務所の佐々木さん(プロナチュラリスト)が自然観察の説明を実施、12時30分終了、流れ解散となった。

(記 5期 松崎)

森林学習(森林の働きについて知る)

日 2月4日(水)
場 大和市 野鳥の森
参 大和市上和田小学校 5年生 75名・教員3名
イ L高橋③、渡辺③、柏倉④、宮本④、武者⑦、加藤⑧、中島⑨、酒井⑩、

冬寒の校庭に集合した子どもたち、リーダー高橋さんの「今日は、立春です」大きな声に励まされ、野鳥の森へ出発。

先生方より「水資源の涵養のため、スポンジのような森林の働きなどを目当てに」と出された課題を、子どもは五感で体感させることを意識し観察開始。

まず準備体操と称して、道路で約10回ジャンプ、入り口の小さな広場で、またジャンプ、土の柔らかさを足裏で実感。この土は木が造ったものです。

「では、木は木の何を使ったのかな？」返答に完全に窮する子どもたち。

葉の下にいる動物・ミミズ一匹が腐植葉を食べ、一年で平均1トン近い土を造り、そして皆さんの靴一足の下には、エビ・貝やカビなどの生き物が十万匹以上生き、何十年・何百年もかけて土壌を造っていると説明、感心する子らの顔・顔・顔。

次に葉をどけさせ、素手で土を握らせると、そっと指先でつまむ子たち、「もっと手でギュッと」、すると湿り気はあるが、サラサラした森の土を実感感動。

そして、似た葉を集めさせ、双子や兄弟作り、「どこが似ているの？」細長く鋸歯に針のある特徴からクヌギの名を紹介、ついでに両手で集めた葉を空に投げ、降る雪に、雪ならぬ葉で合戦を、皆大きな歓声を上げ遊びに夢中。

特有の殻斗を持つクヌギの団栗を見せ、皆で団栗の宝探し競争開始。3分間で、最高8個の子が優勝。遊びながら、森に親近感を持ってくれたようだ。

そして、最後にコナラの団栗が頂より根を地上に伸ばし、赤ちゃんコナラの誕生を見せ、子らはへえと感激し、森・自然に大きな興味を抱かせた。また帰り際に先程の葉の斜面がコンクリートで固められ、「大雨がふったら」私の質問に、子どもたちより即座に「洪水」の回答。

校庭で、リーダーの「また森に行きたいですか？」全児童がもろ手を挙げた。今日の活動が成功裡に終わったことを感じた。

(記 10期 酒井)

第3回・森林探訪 日本三大薬師「日向薬師」を訪ねて

日 2月1日(日)8時40分~15時 晴れ
場 日向薬師~日向山~七沢
参 一般参加者 129名(応募154名)(募集100名)
イ L谷津⑦、友谷①、高橋③、高崎④、宮本④、武者⑦、久保⑧、黒沢⑧、野田⑧、内野⑨、小澤⑨、女川⑨、水口⑨、大野⑨、海野⑩、橋本⑩、杉崎⑩、小林⑩、後藤⑩、福原⑩、酒井⑩、松山⑩、

日向薬師に残る極相林を中心に水源林を案内し、冬の森に親しんで頂きながら、生態系などの自然の仕組み、大切さをお伝えするのをテーマにご案内しました。

昨年、雪で中止になり今年こそは・・・との意気込みが通じたのか、晴天に恵まれて129名の大所帯を怪我も無くお連れ出来ました。アンケートでの参加者の感触も良かったのは今回、10期の方のリーダー応募も多く、皆さん勉強熱心に下見をして頂いた努力の賜物だと思います。来年度からの自然観察部会は厳しい状況下におかれませんが、これだけ一般の方にも喜んで頂いている活動を無くしてはならないと感じた。

本年度最後の自然観察部会活動「森林探訪会」でした。

(記 7期 谷津)

「神奈川の森林についての講話」

日 2月17日(火)晴れ 9時40分~11時30分
場 藤沢市立村岡小学校
参 81名(児童77名、校長・教員3名)
イ 柏倉④、加藤⑧、小笠原⑩、

人工衛星写真をもとに神奈川の森林分布を説明した後に、「森林の働き(公益的機能)」や「神奈川の森林の現状」「森林づくり活動」「望まれる豊かな森林の姿」「森林での文化活動」等の内容について話す。三者三様の、それぞれが持ち味を生かした学習展開を見せ、どの学級も落ち着いた雰囲気であった。

児童たちの理解を深めるためにパワーポイントや紙芝居・森林づくり作業の写真等を利用した。また、児童の興味関心を引く方法として木工作品を展示したり、作業時の格好(ヘルメット、鋸、鉋着用)で説明したインストラクターもお好評であった。スギ、ヒノキの葉やスギ板、ヒノキ板を使つての説明は日本の木造建築に目を向けさせる観点から今後も準備したい教材と言える。

(記 4期 柏倉)

お詫びと訂正

「森のなかま」2月号・「私の認識」を下記に訂正いたします。P3×生体的○生態的×植物の身○植物の実 P7,「森林循環フェア」のタイトル×～らしに活かす○～らしに活かす。×と発生され○と発生され・×携わられた。○はピリオドなし。<広報部>

広報部からのお願い

活動短信の活動内容は400字を守ってください。

**やどりき水源林
ミニガイド**

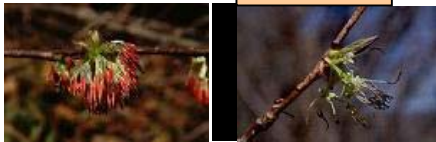
2月のトピックス

今月は色々な出会いがありました。ムササビ君、スズメバチの巣、里で良い事見つけたかな？最近では常連になりつつあるカモシカさん。(右の写真)ヒゲを蓄え山の学者のようです。



3月の水源林

フサザクラが
咲き出します



「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度(冬季休止)
- 集合：水源林入口ゲート前
- 内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわ森林づくり公社 県民運動課
Tel 0465-85-1900
- ホームページ：
http://www.ny.airnet.ne.jp/k_sirin/
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

阿修羅展

東京国立博物館・平成館(東京・上野公園)では、平成21年3月31日(火)から6月7日(日)まで、「興福寺創建1300年記念 国宝 阿修羅展」を開催します。同展は興福寺の中金堂再建事業にあわせて計画されたもので、興福寺の貴重な文化財の中から、阿修羅像をはじめとする八部衆像、十大弟子像、再建される中金堂に安置される仏像など、約70件を一挙に展覧します。

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

<①手書き原稿送り先>

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784Fax/<株リコー

・森宛 045-590-1910>

<②メール原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈袋2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

＝編集後記＝

★TVで職業詐欺の番組を見た。金の中に生きる若者の自分だけの正義感。性善説なんて言葉はそこに無い。自然は春に向かって静かに力強く生きる。進化はあるものの、穏やかに和を保ちつつ生きる循環を繰り返す。人間の生活や進歩は、この自然から生きる基本の原点を学べないものか。(鈴木)

★やどりき水源の最源流を徹底的に巡りました。湧き水あり、豪快な滝ありその模様は水源林ニュース3月号にて・・・ご期待ください。(金森)

★光陰、矢のごとし。毎月、この編集後記に追われています。「2月は逃げる、3月は去る」という言葉があります。有意義な日々を送りたいものです。(森本)

★山北町の依頼で紙すき指導を行いました。山北町ではミツマタを使った町おこしが進められており、紙すき工房の構想もあるようです。少しでもお役にたてればと思っています。(井出)

★手書き原稿を読んでいると、皆さん人生が見えてくるようです。ここで一つお願い出来れば原稿用紙をご利用ください。より正確に入力するためにご協力を！(森)

★2/22 酒匂川を遡り冬鳥観察をしてきました。オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウに出会えたのはラッキー、46種の冬鳥。オオバンは大判振る舞で迎えてくれました。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。郵便振替口座 00230-0-2454

NPO 法人 かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。(頒価 200円 送料共)

編集人：森本正信
広報部：井出恒夫、鈴木松弘、
村井正孝、金森 巖
森 義徳

ヤマケイ・カルチャークラブ ●様々な登山とカルチャーの楽しみ方をご紹介します。
※詳細はアルパインツアーサービスのホームページをご覧ください。

英語でハイキング ●講師：ツバート・ポトロガル氏	山の整体 ●粕 雅子氏(整体ナビゲーター)	エンジョイ鍋 ●山田 芳男氏(鍋の料理人)
高尾山(Mt. TAKAO)	新宿御苑	伊豆高尾山
出発日：4/14(火) ¥8,000 京王線・高尾山駅 8:20 集合	出発日：4/23(木) ¥6,000 新宿御苑大木戸門前 10:00 集合	出発日：4/19(日) ¥13,000 新宿駅西口スバルビル前 7:00 集合

アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル
Tel:03(3503)1911 info@alpine-tour.com
<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか